

# 平成25年度「先導的大学改革推進委託事業」

## (テーマ：今後の教職大学院におけるカリキュラムイメージに関する調査研究) 事業概要

### 1. 事業の目的

平成24年8月の中央教育審議会の答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」における教員養成の高度化において、教職大学院の質と量の充実の方向性が示され、さらにその当面の改善方策を検討する「教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議」報告書（以下「報告書」）においては、教職大学院制度創設後5年間の取組を踏まえ、教職大学院の教育課程の成果や課題を検証した上で、どのような教育課程が望ましいのか大学関係者等で検討し、平成18年の中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」で示されたモデルカリキュラムを、できるだけ早期に、改訂することが求められている。

開設後5年を経た今日、全国の教職大学院においては、社会の急激な変化に伴って高度化・複雑化する教育現場を取り巻く諸課題やニーズに対応できる、高度な専門性と実践力・応用力を備えた教員の養成・研修に取り組んでいる。

これらの教員養成の実践を踏まえ、教職大学院の発展・拡充期におけるカリキュラムイメージについて、以下の「2. ①～④」に掲げる項目について具体的な検討を実施しようとするものである。

事業実施期間：平成25年9月30日～平成26年3月31日

### 2. 調査研究項目及び報告書に係る留意点

#### ①授業指導コースのカリキュラムの在り方の検討

##### 【趣旨】

今後の教職大学院の発展・拡充により、教育学研究科が担っていた教科教育の役割を教職大学院が担うこととなるが、教職大学院での高度専門職としての教員養成においては、教科教育と教科専門という従来の教科の教育ではなく、高度専門職として修得すべき実践的指導力の育成という観点から、個別の教科や学校種の違いを超えて教育を俯瞰し研究する教育実践研究を積極的に採り入れた体系的な教育課程を編成することが重要である。

各教職大学院のこれまでの実践と実績、今後の課題をベースに、従来の教育学研究科における優れた教科教育の事例・知見を取り入れながら、授業指導コースとしてあるべきカリキュラムについて、必要と思われる具体的な授業科目及びその担当教員に求められる専門性や資質等について提示したいと考える。

##### 【報告書概要 (P.20,22)】

○ 共通科目、学校における実習と関連した内容とし、共通5領域のうち「教育課程の編成・実施に関する領域」、「教科等の実践的な指導方法に関する領域」をより専門的に発展させたもの（具体的には「総合的な学習の時間」、「言語活動」など、学習指導要領が提起している能動的な学習に対応した教材や指導法を開発できる力量の育成を目標とするもの）とする。実習を通じた学修の場合は、連携協力校の指導教諭・研究主任等の協力を得ることが望ましい。

○ 共通科目を基盤とし、学校現場の今日的課題の解決に資するこれまでの教職大学院の趣旨・目的を維持するため、今後も、個別の教科内容を中心とした履修モデルを設定することをしない。

## ②管理職候補者を養成する学校経営コースのカリキュラムの在り方の検討

### 【趣旨】

教職大学院は、スクールリーダー養成機能として、管理職候補者となる教員が、学校の組織的な対応や管理職としてのリーダーシップを発揮し、学校が地域と一体となって目標を達成していくプロセスなど学校マネジメントを重点的に学修するコースを設置する必要がある。

全国の教職大学院の「学校経営コース」のこれまでの実践と成果、教育委員会及び学校からのニーズ・課題をもとに、これからの管理職養成にあるべきカリキュラムについて、必要と思われる具体的な授業科目及びその担当教員に求められる専門性や資質を提示したいと考える。

### 【報告書概要 (P.19,20,22)】

- 管理職候補者となる教員が、学校マネジメントを重点的に学修するスクールリーダー養成機能を担うコースを設置する必要がある。
- 学校と地域が連携・協働する体勢を構築することの必要性から、これからの学校づくりに欠かせない重要な内容である「地域とともにある学校づくり」を「学級経営，学校経営に関する領域」において、必ず授業で取り扱うこと。

## ③生徒指導コースのカリキュラムの在り方の検討

### 【趣旨】

教職大学院開設後5年を経た今日、体罰やいじめ、不登校など学校現場が直面する課題はますます複雑かつ多様になっており、地域ぐるみの課題解決への取り組みや、機動的な対応力など、教職員全体がチームとなって課題に対応できる力量の形成などの必要性が指摘されているところである。

各教職大学院のこれまでの実績と現状及び今後の課題をベースに、今後の教職大学院の生徒指導コースにおいて、学校現場の今日的課題に対応できる力を育成するためにはどのようなカリキュラムが必要か、具体的な授業科目及びその担当教員に求められる専門性や資質等について提示したいと考える。

### 【報告書概要 (P.6,18,)】

- いじめ・不登校等、学校現場における生徒指導上の諸課題への対応が強く求められており、このような諸課題に対し、学校は、地域ぐるみで課題解決に取り組むこと、組織として機動的に対応すること、教職員全体がチームとなって課題に対応できる力量を形成することが必要である。
- 教職大学院では、教育委員会・学校、学生などのニーズを踏まえながら、生徒指導の高度な専門性と、学校内や地域において幅広い分野で教育活動全体を俯瞰できる力を養成する。

## ④共通5領域カリキュラムの充実方策の検討

### 【趣旨】

教職大学院開設後5年を経て、今後の教職大学院にふさわしい5領域からなる共通（基本）科目の充実方策、具体的な授業科目及びその担当教員に求められる専門性や資質などについて、制度の趣旨を踏まえたうえで専門的な検討を行う。

開設から5年を経た現時点における現状と課題、改善点を理解のうえ、今後の教職大学院に向け

た共通5領域の充実・改革方策案，さらに，ICTや特別支援などの新たに追加すべき分野等について，各大学院における実施状況等を分析，検討のうえ，また教育委員会及び学校からのニーズ・課題をもとに，新たな履修モデルを提示したいと考える。

#### 【報告書概要 (P.19)】

- 現行の「専門職大学院に関し必要な事項について定める件」(平成15年3月31日 文部科学省告示第53号)第8条第1項の制度趣旨を維持しながら，これまでの教職大学院の実施状況を検証し，今後の改善点について検討する。
- 全領域について授業科目を開設し，総単位数は20単位程度を目安とする現行制度の考え方を維持する。ただし，現行の各領域を均等に履修させる考え方ではなく，コース等の特色に応じて履修科目や単位数を設定できるようにする。
- 現職教員を対象とする「学校経営コース」(管理職養成コース)については，内容を管理職向けにする，一部の領域の履修を減らして工夫する，必要に応じて12単位程度の総単位数に変更するなど可能とする。
- 新たな学びへの対応力として，また現在の教育課題として，特別支援教育やICT教育を取り扱う授業科目をそれぞれ共通科目の一部として必修化する。
- 学校と地域が連携・協働する体勢を構築することの必要性から，これからの学校づくりに欠かせない重要な内容である「地域とともにある学校づくり」を「学級経営，学校経営に関する領域」において，必ず授業で取り扱うこと。

### 3. 有識者会議及びワーキンググループについて

当事業を進めるに当たり，専門的な検討を行う有識者会議，各調査項目について具体的な検討を行うワーキンググループを設置し，開催する。

検討の流れとしては，兵庫教育大学内に設置する学内検討チーム(各ワーキンググループに内包される)において「原案(たたき台)」を作成し，これを元に各ワーキンググループで審議，検討のうえ追加・修正を行い，更にこれを有識者会議において専門的な見地から審議・検討を加える。

#### (1) メンバー構成

- ①教職大学院関係者
- ②大学関係者(学部段階での教員養成等)
- ③教育委員会関係者
- ④学校関係者(私立学校含む)
- ⑤マスコミ関係者

#### (2) 開催計画

##### i) 有識者会議及びワーキンググループ

(期間内それぞれ2回程度。その他、メール会議等に対応予定。)

※ 開催スケジュール

- (1) 有識者会議及びワーキンググループ合同会議  
日時：平成 25 年 11 月 23 日（土・祝）  
14：30～15：15 合同会議  
15：30～16：30 ワーキンググループ  
場所：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス内 兵教ホール他  
（兵庫県神戸市中央区東川崎町 1-5-7）
- (2) 有識者会議及びワーキンググループ合同会議  
日時：平成 26 年 2 月 6 日（木）  
13：30～14：45 合同会議  
15：15～16：30 ワーキンググループ  
場所：学術総合センター  
（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2）

※ 会議開催に先立ち、学内検討チーム作成原案をメール等で送付のうえ、内容を確認・検討していただく。会議ご欠席の場合でも、事前にメール等でご意見をいただき、内容に反映させる。

ii) シンポジウム

平成 25 年 12 月 8 日（日） 日本教職大学院協会シンポジウムにおいて当事業について  
状況説明（参加任意）  
場所：学術総合センター（東京）  
（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2）

平成 26 年 3 月 20 日（木） 当事業主催「シンポジウム」開催（可能な限り参加を依頼）  
場所：フロラシオン青山（東京）  
（東京都港区南青山 4-17-58）

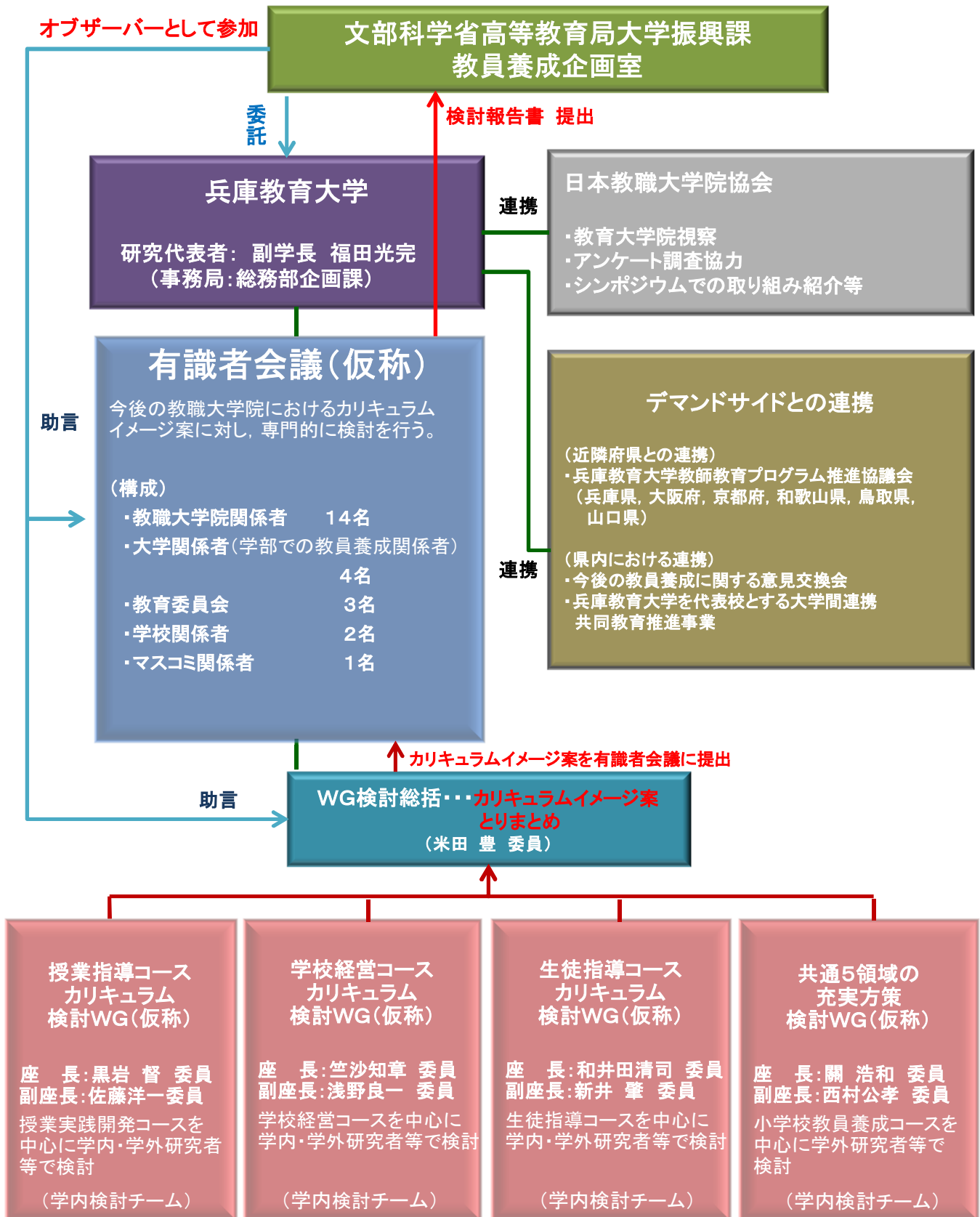
iii) 教職大学院視察

全国 25 教職大学院における教育実践の教職大学院における実践・取組の現状を確認・理解することを目的に、有識者会議及びワーキンググループ委員による視察調査を実施する。予定大学院及び実施時期は、現在検討中。

※ 上記 i) ～ iii) にかかる謝金及び旅費等は、当事業費により本学が負担する。

以上

# 【実施体制図】



## H25年度 先導的大学改革推進委託事業 スケジュール表(H25年度)

事業名： 今後の教職大学院におけるカリキュラムイメージに関する調査研究

事業期間： 平成25年9月30日 ～ 平成26年3月31日

	11月	12月	1月	2月	3月
<b>兵庫教育大学</b>					
<b>有識者会議</b>					
会議開催	11月23日			2月6日	報告まとめ
シンポジウム等		12月8日	日本教職大学院協会シンポジウム		当事業シンポジウム(最終報告) 3月20日
教職大学院視察	12月上旬～2月上旬				
<b>授業指導コースカリキュラムWG</b>					
学内検討チーム	11月下旬～3月上旬				
シンポジウム等		12月8日	日本教職大学院協会シンポジウム		当事業シンポジウム(最終報告) 3月20日
WG開催	11月23日	11月下旬～2月上旬(メール審議含む)		2月6日	報告まとめ
教職大学院視察	12月上旬～2月上旬				
<b>学校経営コースカリキュラムWG</b>					
学内検討チーム	11月下旬～3月上旬				
シンポジウム等		12月8日	日本教職大学院協会シンポジウム		当事業シンポジウム(最終報告) 3月20日
WG開催	11月23日	11月下旬～2月上旬(メール審議含む)		2月6日	報告まとめ
教職大学院視察	12月上旬～2月上旬				
<b>生徒指導コースカリキュラムWG</b>					
学内検討チーム	11月下旬～3月上旬				
シンポジウム等		12月8日	日本教職大学院協会シンポジウム		当事業シンポジウム(最終報告) 3月20日
WG開催	11月23日	11月下旬～2月上旬(メール審議含む)		2月6日	報告まとめ
教職大学院視察	12月上旬～2月上旬				
<b>共通5領域の充実WG</b>					
学内検討チーム	11月下旬～3月上旬				
シンポジウム等		12月8日	日本教職大学院協会シンポジウム		当事業シンポジウム(最終報告) 3月20日
WG開催	11月23日	11月下旬～2月上旬(メール審議含む)		2月6日	報告まとめ
教職大学院視察	12月上旬～2月上旬				
<b>事務局</b>					
アンケート調査	実施中～11月25日(締め切り)		分析 12月上旬～1月上旬	WGにおいて検討	
報告書作成				執筆開始 2月中旬～3月上旬	
ホームページ公開	12月上旬～		12月中旬～2月上旬		3月下旬
	(第1回有識者会議・WG検討内容)		審議状況を逐次公開		(検討内容報告)
<b>日本教職大学院協会</b>					
委託事業との連携協力	11月上旬～2月上旬 アンケート調査、教職大学院視察、カリキュラム検討案に関する意見照会等				
シンポジウム		12/8	日本教職大学院協会シンポジウム		